



今回は、認知症看護認定看護師  
特定認定看護師（WOC）からのお知らせです



## 認知症は進行性の疾患です

認知症は発病から徐々に進行していく疾患です。認知症になったからといってすぐに何もできなくなるというわけではなく、適切な支援を行うことで症状の悪化を抑制できる可能性も示されています。その人にあった支援方法を考えることが大切になります。

認知症の人が「自分で食事をするのが難しくなった」状況を考えてみましょう

脳のはたらきのどの部分に影響が出ているかによって、さまざまな“食べずらさ”が生じます。

- |                             |          |
|-----------------------------|----------|
| 1 他のことに注意がいきまじ、食事に集中できない。   | [ 注意障害 ] |
| 2 食事をしていること自体をわすれてしまうことがある。 | [ 記憶障害 ] |
| 3 目の前にある物を食べ物と認識しづらい。       | [ 失認 ]   |
| 4 食べる」という動作の手順がわからなくなっている。  | [ 失行 ]   |

食べることに意識や意欲が向かうように、状況に合わせて工夫しましょう。

- 例) 「食べ物を前にじーっと固まっているケース」では…
- 食べる動作（手順）がわからない
  - 食べ物を食べ物として認識しづらい などの理由が考えられます



### 食事動作の記憶をひきだすための工夫

#### 動作のきっかけをつくる

スプーンを手に持ってもらったり「おいしいですよ」と声をかけると、動作を思い出し、食事をはじめのきっかけになることもあります。

#### 食べる様子を見せる

介護者が本人に向かって一緒に食事をしながら、箸やスプーンで食べ物口に運ぶ動作を見せます。

### 食べ物だと認識してもらうための工夫

#### 食器の色を工夫する

色のついた茶碗に白いご飯を盛ると、注意が向いてご飯を認識しやすくなります。

#### ワンプレートに盛り付ける

ご飯とおかずをひとつの皿に盛り付けると、意識を集中できます。



# 特定認定看護師の活動紹介

2021年6月に特定行為研修の『創傷管理関連』を修了しました！

- ◆ 『褥瘡や慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去』
- ◆ 『創傷に対する陰圧閉鎖療法』

<u>特定行為とは？</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実践的な理解力・思考力および判断力、並びに高度かつ専門的な知識及び技術が特に必要とされるものであって厚生労働省省令で定められた診療の補助のことをいう。</li> <li>● 21区分38行為あります</li> </ul>
<u>特定認定看護師とは？</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一定の経験を持ち、指定の研修機関で専門的な研修を修了した看護師のこと。特定行為研修では、認定看護師としての知識や技術を基盤に、フィジカルアセスメント、病態判断、臨床推論などの医学的知識や医師の考え方、視点を学びます</li> </ul>

## 特定行為研修を受けた看護師が特定行為を行うメリットは？

- 研修を修了した看護師が、患者さんの状態を見極めることで、医師の手順書(指示)により看護師の判断でタイムリーに処置が実施できるようになります。
- 患者さんや家族の立場に立ったわかりやすい説明ができ、「治療」と「生活」の両面からの支援の促進に貢献します。

## 医師の手順書とは？

この手順書をもとに患者さんの状態を十分に観察し、実施可能かどうかを判断します

1. 対象となる患者で、看護師が特定行為を行える病状の範囲
2. 特定看護師が行える特定行為の内容
3. 特定行為を行う患者氏名
4. 特定行為を行う時に確認する必要事項
5. 医師に連絡が必要になった時の連絡体制
6. 特定行為後の医師への報告方法

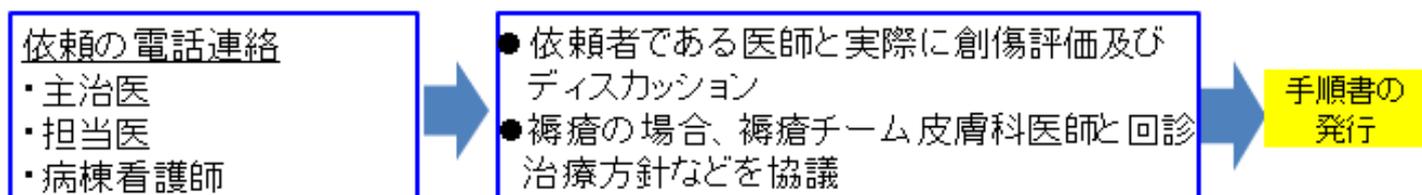


## 現在の活動は？

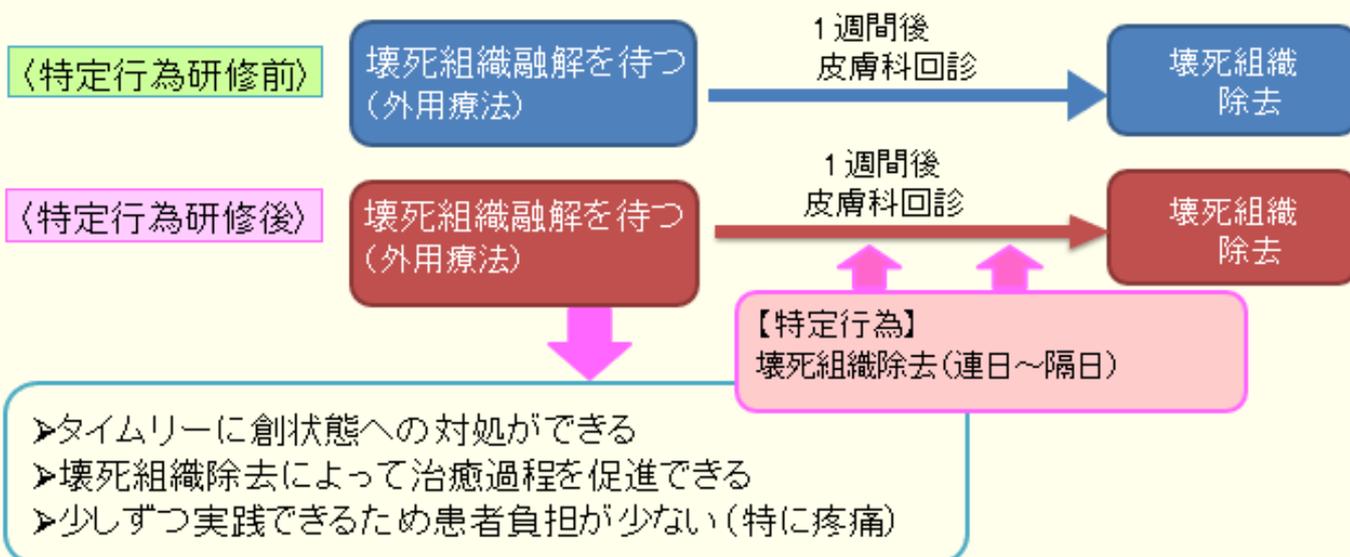
現在は、皮膚科を中心に医師と相談しながら創傷管理を行っています。  
例えば、褥瘡回診の日以外にも、こまめに壊死組織(創の治りを妨げる組織や異物)を除去することは、創が治りやすい環境を整えるうえで、非常に重要な役割を果たします。  
また、創の状態に合わせて、局所陰圧閉鎖療法を検討し、適切なタイミングで適正に使用できるようになり、より早く効果的に創の治りをよくすることが期待できます。



## 『創傷管理関連』 特定行為実践の流れ



### ● 血流のない壊死組織の除去



## 今後の抱負

当院は【「地域で生きる」を支える急性期病院】として、地域に根差した医療を行う中核病院の役割を担っています。

将来的には、これまで学んだ医学的知識と技術を活かし、医師とのコミュニケーションをスムーズに行うことで、タイムリーに必要なケアを提供できると考えています。また、患者さんやご家族のサポート役となり、医師や多職種との協働連携を図り、「治療」と「生活」の両面からの支援促進、また地域の医療ニーズに沿った医療・看護を提供できるよう取り組んでいきたいと思ひます。

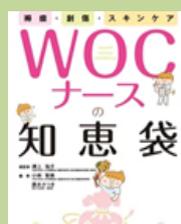
現在、当院からご自宅に退院して療養中の通院が難しい方に、担当の訪問看護師さんと一緒にご自宅に伺い、退院後の褥瘡やストーマケアについて相談やサポートができるような体制を調整中です。

■ 今回のオススメの書籍をご紹介します！



「認知症のある患者さんのアセスメントとケア」  
出版社：ナツメ社  
監修者：六角僚子 種市ひろみ  
本間昭

さまざまな困りごとと解決策が紹介されています。患者さんやご家族の気持ちが手に取るようにわかります。マンガも添えられており、思わずうなずきながら読み進められる内容です。



「WOCナースの知恵袋」  
出版社：照林社  
監修者：溝上祐子  
編著：小林智美 黒木さつき

環境や物品、風土の違いなどからマニュアル通りのケアを提供することが難しいこともあるかもしれません。現場で使えるワザや、ケアのポイントを写真を用いて、具体的にわかりやすく解説されています。

公立学校共済組合 関東中央病院 看護部